



月刊労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話(鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

96.4.1 No. 4369

春闘が2波から5波に拡大！ 新小岩倉 弾劾回答格差

春闘第二波II新小岩掘点報告

三・二九春闘スト総決起集会は、十三時から機関区庁舎前に七十名が参加してかちとられた。服部支部書記次長の開会あいさつにつづいて、支部を代表して大竹書記長が、本日のストには七名が突入した、貨物会社の格差回答は許せない、フレイト二一による会社の合理化攻撃に対して闘いぬくと訴えた。

貨物合理化と断固闘い抜く！

つぎに本部布施副委員長が、本日のストは旅客会社との格差にたいする抗議のストである、労働者の雇用も賃金も守れないJR総連日貨を怒りをこめて追及する、分割・民営化攻撃は破産した、当局の最大の失敗は革マルと手を結んだことである、この闘いは「九年度問題」春闘



である、沖縄闘争と連帯して闘おうと第二波ストの意義を提起した。つづいて金属機械労組江東支部、東京東部労組交流センターの仲間からそれぞれかけつけた来賓のあいさつをうけ、支部からの決意表明に入った。

貨物協議会柴崎議長、車両技術分科会、乗務員分科会、青年部からそれぞれ格差回答にたいする怒りが表明され、スト参加者を代表して事務分科田村さんから、最後まで闘いぬくと力強く決意がのべられた。かけつけた津田沼、館山、鴨川、木更津、京葉の各支部代表の連帯のあいさつのち、シュプレヒコール、団結ガンバローで総決起集会は成功のうちに終了した。

春闘第二波II佐倉掘点報告

九六春闘第二波ストライキは、三月二十九日午後一時から九名の組合員がストに突入するなかで、佐倉掘点で総決起集会がかちとられた。

貨物超低額回答を断固許すな！

第二波ストに怒りの決起！

庁舎前で開催された集会は、佐倉支部をはじめ千葉転、幕張、銚子、総武、成田の各支部組合員六十名が結集し、田中支部書記長の司会で始まった。冒頭あいさつに立った宮内佐倉支部長は、貨物会社はまたも超低額の回答を行なった、これを許さず怒りをもって闘おう、と力強く

訴えた。つづいて本部田中書記長より経過と闘いの基調が提起された。田中書記長は、貨物の低額かつ格差回答が出されたのに抗議の闘いをしてるのは動労千葉だけであること、貨物の現状を規定しているのはJR体制にあること、そのJR体制はJR東労組で大きく崩れを開始していることなどを明らかにしたうえで、いまこそわれわれの闘いが力を発揮する時がきた、本日のストもこうした観点で闘いぬこうと訴えた。

かけつけた各支部を代表して、小倉千葉転副支部長、石幡幕張支部長、高野総武支部長の三氏からあいさつをうけ、スト参加者から中台支部執行委員が決意表明を行なった。最後にシュプレヒコールと団結ガンバローで集会を終了した。

レヒコールと団結ガンバローで集会を終了した。



当面する闘いのスケジュール

・動労総連合第一〇回定期中央委員会

日時 四月一〇日(木) 一三時

場所 千葉市民会館

・沖縄中央集会

日時 四月一六日(火) 一八時

場所 代々木公園

・全支部物販担当者会議および全国オールド国会議

日時 四月三日(火) 一八時

場所 動力車会館